
童話 三色団子

あひる亭桃羽

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

童話 三色団子

【Nコード】

N6953G

【作者名】

あひる亭桃羽

【あらすじ】

お団子職人さんが新しいお団子を作ろうとしますが、良い案が浮かびません。そこで春さん夏さん秋さん冬さんに相談をして…

昔々のお話です。

お団子を作る職人さんが、新しいお団子を考えていました。しかし、さっぱり良い考えが浮かびません。

困った職人さんは春さん夏さん秋さん冬さんに相談しました。

「何か良い考えはありませんか？」

優しい四人は考えました。

そして、冬さんが言いました。

「そうだ、僕達四季をお団子にしたらどうだろう？」

「そうだそうだ、それは面白い」

春さん夏さん秋さん冬さんは早速、職人さんにそれを伝えました。

「なるほど、それは確かに面白そうだ」

職人さんは試しにお団子を作ってみました。

それは、春さんをピンクのお団子、夏さんを緑のお団子、秋さんを黄色いお団子、冬さんを白いお団子に見立てて作った、それはそれは見事なお団子です。

「みてください！この色には意味があり、春さんのピンクは桜のピンク。夏さんの緑は新緑の緑。秋さんの黄色は紅葉の黄色。冬さんの白は雪を表しているんです」

その見事なお団子にみんな大喜び。

しかし、秋さんだけ浮かない顔をしています。

それに気付いた夏さんが、秋さんに声をかけました。

「どうしたんだい？秋さん。こんなに見事なお団子なのに」

「うーん。とても見事なお団子だけど、四つはさすがに多くないかい？おやつに食べたらお腹がいっぱいになっちゃうよ」

たしかに、そのお団子を一本食べたなら、夕飯が食べられないかもしれません。みんなは良い案はないものかと頭を捻りました。

みんなが唸りながら考えていると秋さんがポンツと自分の膝を叩きました。

「職人さん、そのお団子から僕の色を抜いたらいいよ。そうすれば量的にもちょうどいい」

職人さんは秋さんの提案に驚いて、

「いやいや秋さん、あなただけを仲間外れにしたみたいで申し訳ないよ」

すると秋さんは、

「違うんです。みんなで考えたお団子、未永く色んな人に食べてもらいたいでしょ？」

「そりゃそうだけど…」

「僕が抜ければ飽きない（秋無い）と語呂がいい。三つならお腹も丁度いい。いい事づくめじゃないか」

その秋さんの言葉に一同は思わずうなずきました。

かくして、ピンク・白・緑の三色団子は今の形になったとさ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6953g/>

童話 三色団子

2010年12月21日15時23分発行